

福島の人から学ぼう <福島原発事故の被災地から> 飯舘村の青年と語る～計画的避難区域から未来を紡ぐ～

日時： 10月21日（金）6時半～

場所： ドーンセンター／大会議室 2

主催： チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

佐藤健太さんのプロフィール

飯舘村で生まれ育つ(1982年生まれ29歳)。事故前から、子どもたちの世話役として村の行事などにも積極的に参加。3月11日の震災と東京電力福島第一原発事故後、村が放射能で高濃度に汚染されたことを知り、子どもや若者を早急に避難させるよう求めてTwitter (@024442パングP)等で訴えかけ続けた。

4月末、「計画的避難」開始前に、村の若者と年輩者が協力して立ち上げた「負けねど飯舘!!」の発足にかかわった。

村民の将来の健康や生活を守るためにも、事故後の行動や健康・生活の記録を残そうと「健康生活手帳」の作成にも尽力。「負けねど飯舘!!」の常任理事。飯舘村商工会青年部副部長。福島県商工会青年部連合会理事。



(地下鉄「天満橋」駅下車。

1番出口より東へ約350m)

「さようなら原発集会」 9月19日 明治公園

6万人が結集。集会前の12時半頃、千駄ヶ谷駅を降りると、人々が駅構内にあふれていた。公園内にはいるが、身動きができないほどの人の数。

集会の始まる30分前、13時にはすでに公園内に入ることが出来ず、周辺の歩道に人があふれた。人々の熱い思いを共感。

福島県 ハイロアクションの武藤類子さんの話。「放射能が降り注ぎ、私たちはヒバクシャとなりました。すばやく張り巡らされた安全キャンペーンと不安のはざままで引き裂かれていく人と人のつながり。毎日毎日、いやおうなく迫られる決断。『逃げる、逃げない』『食べる、食べない』様々な苦渋な選択がありました」と語り、今後も福島県の人々の起こすアクションに注目して欲しいと訴えられた。14時すぎには、3つのコースに分かれ、デモ行進を行い、楽器を演奏したり、プラカードを掲げながら、「原発はいらない!」「原発の再稼働をするな!」などと訴え歩いた。来年の3月、日比谷野外音楽堂での集まりを計画。



(19日午後2時、明治公園 中国新聞)